

安全な国産グリーン社会

コラム SDGs Safety Domestic Green Society

第8回

国際化と国産化の推進
—アドボカシーとしての取り組み

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

▼日本と日本人の特質

私たちは、次のように「間」との関係で生きている。時間・空間・人間・人間である。これは、日本語としての言語的あるいは文化的な感覚に由来するので日本人に特有なことである。対照として英語を考えると、時間/タイム、空間/スペース、世間/ワールド、人間/ヒューマンとなるが、英語の方には「間」との関わりはない。

▼空間：ある場所から別の場所までの間や広がり

「間」は異なる文化の理解や尊重のための余地や時間を指し示す概念として役立つことになり、かつ考慮すべき点である。異なる文化を理解するために「間」を持つことは、誤解を防ぎ、相互に尊重を図るのに役立つ。国内的な視点と国際的な視点の間には、文化、ビジネス、政治などのさまざまな側面で異なるアプローチが存在する。国際的な環境で活動する場合は、国内的な慣習や価値観と異なる「間」を理解し、適応することが求められる。

▼多様なエネルギー

エネルギーは、簡単に言えば、「仕事をする能力」である。中国語では「能源」という。洗楓座は5種の自然エネルギーを法人名にしたものであるが、これを中国語で表すと以下のようになる。水力エネルギー/水能(水能源)、太陽エネルギー/太陽能(太陽能)、風力エネルギー/風能(風能源)、バイオマスエネルギー/生物質能、地熱エネルギー/地熱能。

▼エネルギーの国産化の課題

これまでは、おもに国際化(Internationalization)を目指してやってきた。大学名にも「国際」を冠するということが同調した。国際化は、なるほど現代の世界において重要であり、目標であり、多くのエフェクトを与えてきた。

▼国際性と文化の間

国際的な環境では、さまざまな文化や価値観が相手との調和を保ちつつ、国際的なビジネス取引を成功させるためには、「間」の考慮が必要である。この間には「余白」としてとらえることができるが、その議論はここでは省略する。

▼アドボカシー

アドボカシー(Advoca)は、特定の主題、問題、または利益を支持し、その促進や保護を行う行為を指しており、筆者の活動の根幹にある。

▼環境と持続可能性

環境と持続可能性は、さまざまな形態や形式で存在し、相互に変換することができる。運動エネルギー、位置エネルギー、熱エネルギー、電気エネルギー、化学エネルギー、核エネルギーなど。私たちが働く源

▼課題の解決

課題を英語では、チャレンジ(challenge)と訳されることが多い。課題は「困難な問題」という意味もあるが、同時に「克服すべきポジティブな挑戦」としての側面とらえることもできる。



国際的な環境では、さまざまな文化や価値観が相手との調和を保ちつつ、国際的なビジネス取引を成功させるためには、「間」の考慮が必要である。この間には「余白」としてとらえることができるが、その議論はここでは省略する。

アドボカシー(Advoca)は、特定の主題、問題、または利益を支持し、その促進や保護を行う行為を指しており、筆者の活動の根幹にある。

環境と持続可能性は、さまざまな形態や形式で存在し、相互に変換することができる。運動エネルギー、位置エネルギー、熱エネルギー、電気エネルギー、化学エネルギー、核エネルギーなど。私たちが働く源

課題を英語では、チャレンジ(challenge)と訳されることが多い。課題は「困難な問題」という意味もあるが、同時に「克服すべきポジティブな挑戦」としての側面とらえることもできる。

課題を英語では、チャレンジ(challenge)と訳されることが多い。課題は「困難な問題」という意味もあるが、同時に「克服すべきポジティブな挑戦」としての側面とらえることもできる。

課題を英語では、チャレンジ(challenge)と訳されることが多い。課題は「困難な問題」という意味もあるが、同時に「克服すべきポジティブな挑戦」としての側面とらえることもできる。

連載

課題に対処するためには、国内政策、国際的な協力、効率的な生産技術の導入など、バランスの取れたアプローチが必要となる。国産化の長期的な戦略は、国家の独立性と競争力を強化しつつ、国際的な連携と共存も考慮に入れる必要がある。このように、国際化は利点の反面欠点もあり、課題を提供している。貧富の格差、文化的な摩擦、環境問題、国際紛争などがあり、国際社会がこれらの課題に対処し解決策を模索することが、いわゆる持続可能な地球をつくる。そうすると、もう一つ選択として、国産化(Localization)がある。ある国や地域で製品やサービスの生産を増やしたり、国内の需要を満たすための取り組みである。国産化にもさまざまな相がある。